

# 西南日本の深部低周波微動・短期的スローリップ活動状況(2007年3月)その1

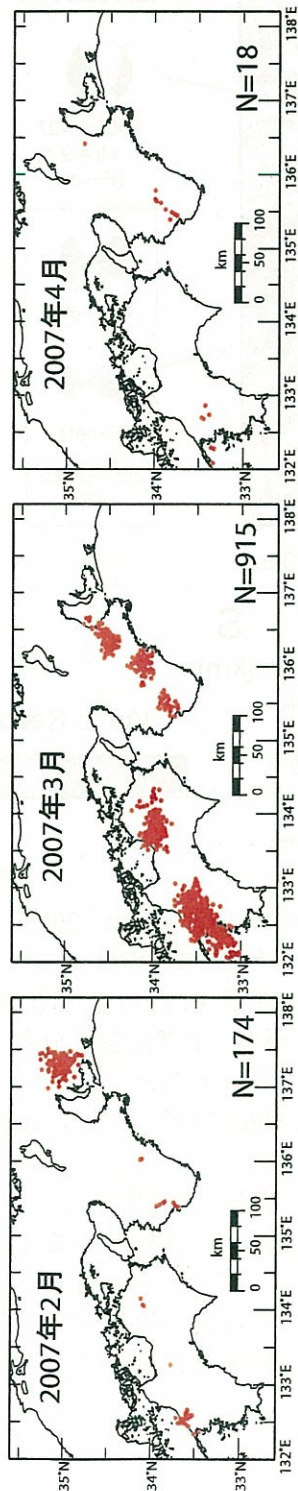
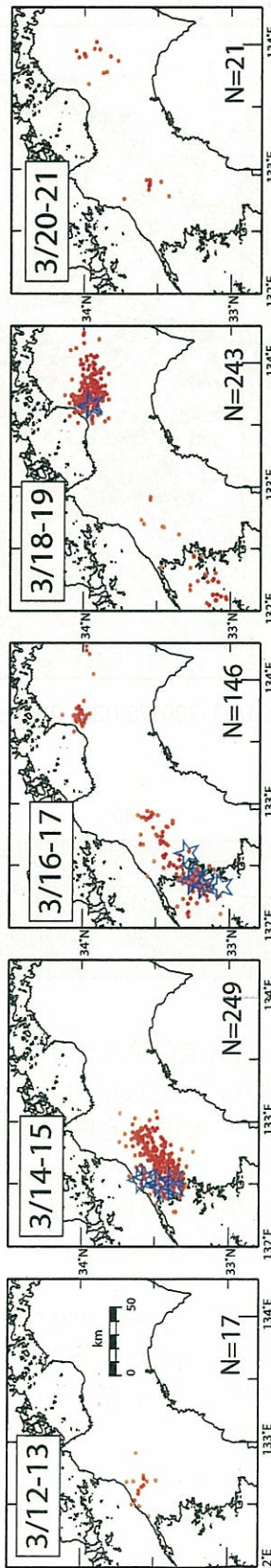


図1. 2007年2月～4月までの1ヵ月毎の深部低周波微動活動。赤丸が当該期間の微動の震央位置を表す。震央はエンベロープ相関法(Obara, 2002)によって1分毎に自動処理された中で誤差が1km以内で推定されたもので、他の図についても同様である。

図2. 四国における2007年3月12日～3月21日までの2日間毎の微動源分布。星印はこの期間中に観測された深部超低周波地震である。四国西部における微動・超低周波地震活動に伴って短期的スローリップイベントが同時に発生している。今回の活動は、2006年9月以来6ヶ月ぶり、



四国西部で発生するこれらの現象の繰返し周期と調和的である。四国東部では、約3ヶ月周期でこれらの現象が発生しているが、前回の活動は2006年11月であり、それ以来4ヶ月ぶりの活動であった。今回の四国東部での微動活動に同期して、近接した観測点で傾斜変化が観測されており、小規模な短期的スローリップイベントが同時に発生したと考えられる。

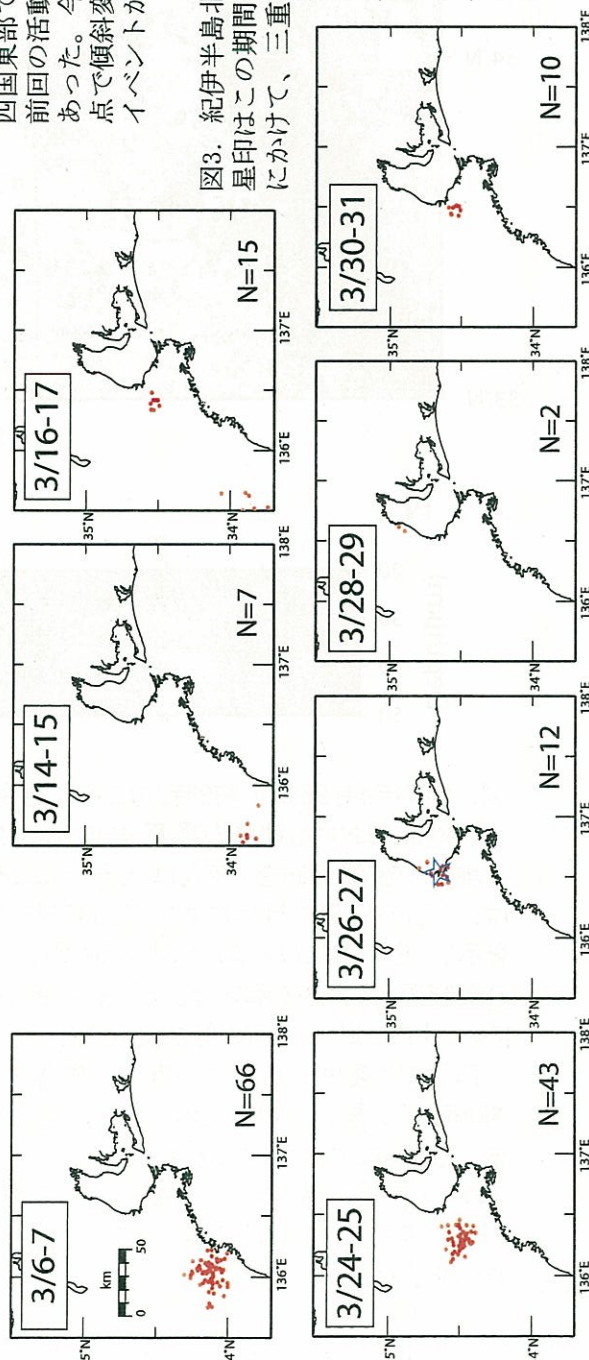


図3. 紀伊半島北西部における2007年3月中の2日間毎の微動源分布。星印はこの期間中に観測された深部超低周波地震である。3月6～7日にかけて、三重・奈良県境で一時的に微動が活発化した。このとき、近隣の観測点では有意な傾斜変化は観測されなかった。その後、16～17日に三重県中部でごく小規模な微動が発生したが、24日からは特に活発化し、この時点で明瞭な傾斜変化を伴ったことから、短期的スローリップイベントと共に発生したものと考えられる。今回のこの領域における現象は2006年11月初旬以来約5ヶ月ぶりであり、これまでの繰返し周期(約半年)とはほぼ調和的である。